

平成20年度 業務実績報告書

平成 21年6月
公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6-1
設立の根拠となる法律名	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	947,955,540円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設</p> <p>10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格</p> <p>昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称(昭和22年4月医学科廃止)</p> <p>24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学は先端的な歯科医療の知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な歯科医師を育成することを使命とする。</p> <p>また、大学の運営については、公的資金を基盤にしていることを念頭に置き、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を定め、主体的に、自律的な大学運営に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育: 歯学保健医療の分野において活躍する優秀な歯科医師を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・優秀な学生の確保・育成 ・歯科医師国家試験合格率の向上 2 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 3 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 4 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 5 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 6 評価: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。 7 情報公開: 情報公開を積極的に推進する。

法人の業務	(1) 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 (3) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 (5) 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 (6) 全各号の業務に附随する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数値は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員の数値は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	福田 仁一	4年(平成18年4月1日～平成22年3月31日)	九州歯科大学学長
副理事長	志波 朋和	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	ホクシン(株)代表取締役副社長
常務理事(事務局長)	中原 憲幸	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	九州歯科大学事務局長
理事(学外)	重瀨 雅敏	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	TOTO(株)代表取締役会長 北九州商工会議所会頭
理事(学外)	大家 重夫	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	久留米大学法学部特任教授
理事(学内)	西原 達次	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	歯学部長(感染分子生物学分野教授)
理事(学内)	鱒見 進一	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	附属病院長(顎口腔欠損再構築学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	広瀬公認会計士事務所所長
監事	配川 壽好	2年(平成20年4月1日～平成22年3月31日)	若戸法律事務所 弁護士

(2) 教員

		H18	H19	H20	H21	H22	H23
教員数	常勤(正規)	121人	119人	119人			
	内訳						
	教授	22人	24人	23人			
	助教授	19人	—	—	—	—	—
	准教授	—	16人	15人			
	講師	18人	16人	16人			
	助教	—	63人	65人			
	助手	62人	—	—			
非常勤講師	128人	136人	134人				
合計		249人	255人	253人			

教員数増減の主な理由

(3)職員										
		H18	H19	H20	H21	H22	H23			
職員数	事務局長	1人	1人	1人						
	正規職員	県派遣	66人	52人	52人					
		プロパー	人	11人	11人					
		他団体派遣	人	人	人					
		その他	人	人	人					
	計	66人	63人	63人						
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	49人	59人	57人							
合計	116人	122人	121人							
職員数増減の主な理由										
(4)法人の組織構成										
歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数	定員充足率 (b)/(a)×100	定数充足率の推移 (%)					
					H18	H19	H20	H21	H22	H23
	計	690人	656人	95%	95	96	95			
内訳	歯学部 歯学科	570人	572人	101%	103	103	101			
		人	人	%						
		人	人	%						
	大学院 歯学研究科	120人	84人	70%	58	64	70			
		人	人	%						
		人	人	%						
		人	人	%						
		人	人	%						
		人	人	%						
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
歯学部歯学科が100%以上の理由： 成績の都合や休学等により留年する学生が存在するため										
大学院が90%以下の理由： 平成18年度から歯科医師臨床研修制度が開始され、入学生が6名に留まったことによる										

4. 審議機関情報

(1)経営協議会

区分	氏名	任期	現職
理事長	福田 仁一	平成18年4月1日～平成22年3月31日	公立大学法人九州歯科大学理事長
副理事長	志波 朋和	平成20年4月1日～平成22年3月31日	公立大学法人九州歯科大学副理事長
学外委員	秋山 治夫	平成20年4月1日～平成22年3月31日	福岡県歯科医師会会長
	岡野 正敏	平成20年4月1日～平成22年3月31日	岡野パルプ(株)代表取締役社長
	北橋 健治	平成20年4月1日～平成22年3月31日	北九州市長
	田中 浩二	平成20年4月1日～平成22年3月31日	JR九州(株)取締役会長
	信友 浩一	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州大学大学院医学研究院教授
	井上 善隆	平成20年4月1日～平成22年3月31日	福岡県立小倉高校校長
	松本 健司	平成20年4月1日～平成22年3月31日	松本健司税理士事務所所長 税理士

(2)教育研究協議会

区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	福田 仁一	平成18年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学学長
学部長	西原 達次	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学歯学部長
学内組織の長	中原 憲幸	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学事務局長
	鱒見 進一	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学附属病院長
	高田 豊	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学附属図書館長
	稲永 清敏	平成20年4月1日～平成22年3月31日	九州歯科大学大学院歯学研究科長

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 1. 教育	歯科保健医療の分野において活躍する優秀な歯科医師を育成する
---------------	-------------------------------

中期計画		年度計画	ウエイト	計画の進捗状況	自己評価		データ番号	
項目	実施事項				評価	理由		
1. 地域の発展に貢献する歯科医師の育成	1 【コミュニケーション能力、倫理観、探究心の育成】 ① 患者の痛みを理解し、意思疎通ができる能力を要請するため医療行動学をはじめ、心理学、鉄学などの素養教育を充実する。 ② 高い倫理観を持った歯科医師を育成するため、井の倫理を主とした倫理学といった素養教育を充実する。 ③ 学生が主体的・能動的に学習し、探究心を身につけつためチュートリアル教育を充実する。	1 ○素養教育の一層の充実につとめ、選択科目を精選し学生の学習意欲を高めるカリキュラムを作成する。 ・今年度は、一般教育系教員にFD活動を通じて、「歯科大学における素養教育の在り方」を提示する。 ・26科目に増加した選択科目の内容の充実を図る。 ○数値目標 ・学生による授業評価 4以上 60%以上	1	・素養教育担当教員に対して、FDを通じて、修学心を向上させる教育法を求めた。 選択科目の非常勤講師に対しても、大学の教育方針を説明し理解を求めた。 ・選択科目については、H19まではドイツ語のみであったが、H20から北九州市立大学との連携により中国語・韓国語を導入した。(選択科目の増加はこれで完了。) ・その結果、学生による授業満足度調査※で、素養教育科目の満足度の数値が0.34アップ(H19実績3.02→H20実績:3.36)した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 73% ・学生の授業評価 4以上60%以上 37.5% ・個人業績評価 B以上80%以上 50%	B	FD活動や選択科目の増加を予定しており実行できた。又学生による素養教育科目の満足度数値も上昇していること、H20から全教科に対して導入した「同僚による授業評価」でも高い数値となっていること、学生の成績も良いことから、Bと評価する。	10	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウエイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D) ウエイト: 無・有(2→1・1→2)						
1. 地域の発展に貢献する歯科医師の育成	2 【歯科医師として備えるべき基礎的知識に関する教育の徹底】 学生が確実に知識及び技術を身につけられるよう、教育方法の工夫・改善を行う。	2 ○歯科基礎教育において統合化された授業の内容の充実に努める。 ・一般基礎医学および歯科基礎医学の教育内容のブラッシュアップを行う。 ○数値目標 ・今後の共用試験CBT得点率70%以上を目指す。	1	・現在は医療系大学共通のモデル・コアカリキュラムに準じて歯科基礎教育全科目の統合化を実施する経過期間となっており、H20年度は3年生以下において統合化した科目を適用し、順調に新カリキュラムに基づく教育を行った。 ○数値目標 ・共用試験CBT 得点率: 76.39% ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 68% ・学生の授業評価 4以上60%以上 25% ・個人業績評価 B以上80%以上 48% ○同僚による授業評価※ 平均 4.3	A	H20から新たに3年生に対する新カリキュラムの教育を実施したこと、また、モデル・コアカリキュラムに基づく共用試験CBTの得点率が目標より高く、新カリキュラムの効果が高いと考えられることから、A評価とする。		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウエイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D) ウエイト: 無・有(2→1・1→2)						
1. 地域の発展に貢献する歯科医師の育成	3 【的確な判断能力、治療技術力の育成】 ① 豊富な事例を通して、患者の訴え症状から、疾病原因の正確な診断や最適な治療方法を見出すことのできる能力を身につけさせる。 ② 臨床実習において、技術力や診断能力が身につけているか厳格に評価する。 ③ 歯科臨床に対する高い意識と研究心を養うため、研究室配属を5年生すべてを対象に行う。 ④ 医療に携わる者としての使命感を育成するため、口腔保健活動や救急車同乗実習などを充実する。 ⑤ 医療経営および社会保険制度に関する教育を充実させる。	3 ○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。 ・細分化していた病院臨床実習を統合しより質の高い参加型実習(5、6年次)を行なう。 ・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3、4年次)に臨床基礎実習教育の充実を進める。 ・臨床基礎実習において、AVコンテンツを稼働する。	2	・5、6年次生の初期実習(軽度の虫歯治療、歯石除去等)を統合化し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上(H19 30%→H20 40%)させた。 ・参加型実習の割合を増加させるため、患者の同意を得るための説明やインストラクターの配置、どの診療科へ実習を配分するかの検討を行い、診療科の7割で参加実習を行える体制を整えた。 ・3、4年次の実習システムを統合化し、新たに作成したAVコンテンツ(実習書をモニター画面上で閲覧できるシステム)を用いて臨床基礎実習教育を開始した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績目標 今期実績 ・学生の成績 良以上80%以上 88% ・学生の授業評価 4以上60%以上 35% ・個人業績評価 B以上80%以上 48% ○同僚による授業評価※ 平均 4.3	A	臨床実習の参加の割合が10%向上し、診療科の7割も参加できる体制が整備されたので、年度計画を上回って実施している。		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウエイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D) ウエイト: 無・有(2→1・1→2)						

通し

1

2

3

		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)																			
4	<p>【専門医療、高度先進医療を行える人材の育成】</p> <p>①高齢者、要介護者の口腔ケアや摂食・嚥下指導のための医療人を育成し、摂食機能リハビリテーション分野を充実する。</p> <p>②高度な専門性を持ち、先端医療を担える医療人の育成を行うために歯科矯正科、歯周病科、口腔外科等の専門診療部門の教育内容を継続的に見直す。</p>	4	<p>○附属病院臨床実習書に基づき、臨床実習システムの大幅な改編を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型臨床実習を充実する。 ・専門外来における臨床実習の内容を改編する。 	1	<p>・5～6年次生の実習に統合化病院臨床実習(初診から終診まで一連の流れを見る実習)を導入するため、臨床実習の再編を行い、新体制の実習をH20 から開始した。・5、6年次生の専門・高度実習(麻酔・抜歯等)を統合化し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上(H19 30%→H20 40%)させた。・専門外来における臨床実習において、ポートフォーリオ(学生が自身で学習達成度を記録して教員と相談し自己管理できるシステム)を導入した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績</p> <table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>今期実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良以上60%以上</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>・学生の授業評価</td> <td>4以上60%以上</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上</td> <td>48%</td> </tr> </table> <p>○同僚による授業評価※ 平均 4.1</p>	目標	今期実績		・学生の成績	良以上60%以上	88%	・学生の授業評価	4以上60%以上	100%	・個人業績評価	B以上80%以上	48%	A	臨床実習の再編を行い、専門医療及び先進医療に関する臨床実習を10%増加させた。また、新たな教育手法を導入したことで、年度計画を上回って実施している。		4
目標	今期実績																				
・学生の成績	良以上60%以上	88%																			
・学生の授業評価	4以上60%以上	100%																			
・個人業績評価	B以上80%以上	48%																			
		(評価委員会)	【報告内容に関して確認した事項】																		
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】	(決定)	【意見・コメント等】																	
		自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)																			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)																			
5	<p>【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】</p> <p>①各科目の到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、厳格な成績評価を行う。</p> <p>②科目間で整合性のある成績評価方法を検討する。</p>	5	<p>○シラバスに明確な評価基準および到達目標を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できるように改編する。</p>	1	<p>○シラバスにモデル・コアカリキュラムに準じた教育で習得できる知識を明示したうえで、この科目が歯学モデル・コアカリキュラムに対応する形に様式を改編した。</p> <p>H19との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科基礎教育の統合化(解剖学、生理学、生化学といった孤立化した教育体系の再編)が完了した。(H19は2年次は旧体系) ・時間数の多い科目は分割し、段階ごとに内容や目標を表示した。(例: 口腔外科学→口腔外科学Ⅰ、Ⅱ)・シラバスを年次ごとに区分し、わかりやすくした。 <p>○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績</p> <table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>今期実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良以上60%以上</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>・学生の授業評価</td> <td>4以上60%以上</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上</td> <td>46%</td> </tr> </table> <p>○同僚による授業評価※ 平均 4.4</p>	目標	今期実績		・学生の成績	良以上60%以上	73%	・学生の授業評価	4以上60%以上	34%	・個人業績評価	B以上80%以上	46%	A	歯学モデル・コアカリキュラムに対応できる様式に改編したことで、年度計画を上回って実施している。		5
目標	今期実績																				
・学生の成績	良以上60%以上	73%																			
・学生の授業評価	4以上60%以上	34%																			
・個人業績評価	B以上80%以上	46%																			
		(評価委員会)	【報告内容に関して確認した事項】																		
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】	(決定)	【意見・コメント等】																	
		自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)																			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)																			
6	<p>【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①全国の歯学部で行われている教養試験「OSCE」、「CBT」を成績評価の対象とする。</p> <p>②国家試験の合格率を上げるため、入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、入試、教育方法、成績評価基準などの見直しにつながるシステムを作り、常に検証していく。</p>	6-1	<p>【共用試験】</p> <p>○共用試験結果を解析し、関連科目へフィードバックするシステムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで蓄積してきたデータを解析し、活用するシステムを稼働させる。 	1	<p>・共用試験(CBT, OSCE)のデータを学生に返却し、弱点を明示して、不得意科目を克服できるようにし、修学意欲を向上させた。・さらに、担当教員に対しても担当科目の平均点を明示し、全国平均点と比較検討させ教育効果という視点で改善を求めた。</p>	A	学生のために不得意科目の克服の方法と担当教員の一步進んだ教育手法を取り入れたことにより、年度計画を上回って実施している。	9	6												
		(評価委員会)	【報告内容に関して確認した事項】																		
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】	(決定)	【意見・コメント等】																	
		自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)																			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)																			
		6-2	<p>【教育効果の検証】</p> <p>○構築した成績管理システムを稼働させ、以下の目標設定達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績「良」以上が70%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・個人業績評価「B」以上5%アップ(前年度比) ・共用試験全員合格・GPA(平均的能力を評価する制度)の導入 	1	<p>・成績管理システムを稼働させ、新たな成績証明書の様式を整えた。</p> <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績「良」以上 73.4% ・学生による授業評価「4」以上 34.15% ・個人業績評価「B」以上 14%ダウン(H19 54%) <p>※本学の個人業績評価は教員の得点分布図を用いて相対評価を行っているため、「前年度比5%アップ」という達成目標自体が適当でなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共用試験 88名合格(全員数 91名) ・今年度、G. P. Aを導入し、学生への成績開示システムに組み込んだ。 <p>・同僚による授業評価 平均 4.4</p>	B	年度計画を十分に実施している。		7												

		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】</p> <p>【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)</p> <p>ウェイト：無・有(2→1・1→2)</p>								
		6-3	<p>【国家試験の合格率アップ】 ○国家試験の結果を解析し、教育カリキュラムにフィードバックさせる。 ・第101回歯科医師国家試験(平成20年度実施)不合格および第102回歯科医師国家試験(平成21年実施)受験予定者の国家試験対策に教員がチューターとして関わり実施的指導を行なう。 ・事務局による学生管理システムの強化する。 ・国家試験合格率全国第10位以内を目指す。</p>	1	<p>・H20年度チューター制度(自己開発型学習訓練を援助する教員)を実施し、受験生の指導にあたったが、国家試験合格率全国19位という結果となった。 ・事務局による学生管理システムにより、在学の6年次生の成績不良者については対応を行っていたが、既卒者への対応が不十分であった。 ・国家試験合格率は全国19位</p>	C	<p>計画目標を十分に達成できなかった。</p>	9	8	
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】</p> <p>【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)</p> <p>ウェイト：無・有(2→1・1→2)</p>								
2適正ある優秀な人材の確保・育成	7	<p>【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 アドミッションポリシーを明確にしてAO入試や特待生入試など優秀な学生を確保するための入試を導入する。</p>	7-1	<p>【アドミッションポリシーの周知度】 ○平成19年度に開示した、アドミッションポリシーをHPや高校訪問などの周知度の向上を図る。 ・AO入試の受験倍率 2.5倍 辞退率 0% ・一般入試の受験倍率 5.0倍 辞退率 5% ・センターランク 83%以上</p>	1	<p>○H20年度の高校訪問時において、アドミッションポリシーを説明し、新たに開始したAO入試を中心に詳細な説明を行った。 ・ホームページにおいてもアドミッションポリシーを公開した。 ○数値目標 ・AO入試の受験倍率 2.7倍 辞退率 0% ・一般入試の受験倍率 3.0倍 辞退率 7.1% ・センターランク 83% ・辞退率は低下したが、一定の学力を有する学生を確保した。</p>	B	<p>年度計画を十分に実施している。</p>	9	9
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】</p> <p>【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)</p> <p>ウェイト：無・有(2→1・1→2)</p>								
		7-2	<p>【AO入試の導入】 ○はじめてのAO入試を円滑に実施するための体制を整備する。 ・AO入試で合格した在学生のデータを新しい学教務システムに登録し、今後の進路調査を行なう。 ・FDを通して AO入試に対する教職員の意識向上を図る。</p>	2	<p>・4.5倍という高い志願者を得て、初年度AO入試(H21.1月実施)は順調に運営された。 ・76名中17名のAO入試合格者を得て、高い志をもって歯科医師を目指す人材を確保することが出来た。 ・入試方法別に成績をフォローする学教務システムを構築したので、今後AO入試合格者の成績及び進路を分析する。 ・FDでAO入試をテーマとして取り上げ、教員の意識が向上させ、アドミッションポリシーに沿った形で、AO入試の面接と集団討論の採点が行われた。</p>	A	<p>初めてAO入試の実施であったが、順調に試験を実施した。また、優秀な学生の確保の目的を果たすことができたので、年度計画を上回って実施している。</p>	10	10	
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】</p> <p>【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)</p> <p>ウェイト：無・有(2→1・1→2)</p>								
	8	<p>【在校生対象の特待生制度等の導入】 ①ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を導入する。 ②現在の奨学金制度を充実させ、学生の経済的支援を図る。</p>	8-1	<p>【TRとRA制度】 ○優秀な大学院生を確保するためにティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を活用する。 ・特殊要因のH18年度入学生を除く大学院充足率80%以上を目指す。</p>	1	<p>・TAおよびRA制度を80%以上の大学院生が活用したことで、教育・研究の補助が行えるほどの研究者に成長した。 ・大学院(23名)充足率は76.67%となったのは、4年生が13%で低いため今後の課題として残された。 ・TA及びRAの延べ従事実績時間 1,791時間(今後の推移を検証するため指標として提示)</p>	B	<p>年度計画を十分に実施している。</p>	11	11
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】</p> <p>【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)</p> <p>ウェイト：無・有(2→1・1→2)</p>								

8-2	【奨学金制度】 ○学生生活の経済的支援を図るために、各種奨学金制度の情報の収集に努め、学生に情報を提供する。 ・教員が永松奨学会の理事会・評議会活動に協力し、連携を強化する。	1	・各種奨学金の情報を学生に提供した。 ・H20年度は日本学生支援機構の奨学金に応募する学生が例年により多く、奨学金を求めている学生が増加していることが分り、理事会・評議会でも永松奨学会に奨学金の増加を要請した。 ・永松奨学金を増加するためには、未回収奨学金の回収率を高める必要があるため、教員が理事会・評議会の役員として協力した。	B	年度計画を十分に実施している。	13	12	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト：無・有(2→1・1→2)								
9	【広報活動の充実】 ①オープンキャンパスの実施内容を改善する。 ②出前講義や高校訪問w実施する。 ③各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に積極的に参加する。	9-1 【オープンキャンパス】 ○オープンキャンパスを充実させる。 ・ポスター掲示などして、事業広報を積極的に行う。 ・オープンキャンパス参加者数 150名以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート 評価「4」以上50%以上	1	・オープンキャンパスの広報活動に努めた結果、参加者が増加し、アンケート調査でも高い評価が得られた。 ・広報の方法 ホームページ、新聞記事(オープンキャンパス特集、無料)、県広報番組、校舎外壁での掲示、高校への案内送付(過去6年間に入学実績があった高校及び県内全高校) ○数値目標 ・オープンキャンパス参加者数 204名 ・参加者アンケート「4」以上 90%	A	オープンキャンパスの参加者数やアンケート調査の評価の数値が目標を上回っており、年度計画を上回って実施している。	7	13
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト：無・有(2→1・1→2)								
9-2	【広報活動】 ○さまざまなメディアとりわけHPを利用して広報活動の充実を図る ・各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に参加 ・受験生や高校関係者に対する広報活動の充実 ・新聞などを用いた情報の発信	1	・福岡や北九州で行われた大学説明会(9会場)に参加して大学のアピールに努めた。 ・高校に対しては進路担当教員に対する訪問を実施している。今年度は初のAO入試の都市であるため、アドミッションポリシーやAO入試についての説明を加えた。また、県外の高校を訪問した際、県外では歯科大の知名度が予想以上に低いことがわかった。そのため、県外の高校訪問も拡大することとした。 ・予備校14校に向いて広報活動を行った。 ・ホームページの表示を変更し、「受験生のために」の欄を設け、受験生がアクセスしやすいよう改善した。	B	年度計画を十分に実施している。	4 5 6	14	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト：無・有(2→1・1→2)								
9-3	【出前講義・高校訪問・入試説明会】 ○出前講義・高校訪問・入試説明会を積極的に活動し、充実させる。 ・出前講義 2校以上 アンケート 良好評価:60%以上 ・高校訪問 県内40校 県外20校 アンケート 良好評価:60%以上 ・入試説明会 参加数 5回以上 アンケート 良好評価:60%以上	1	・出前講義・高校訪問・入試説明会を積極的に行った。 ・高校訪問は、本学学生の出身高校、偏差値レベルの該当する高校を中心に行った。また、北九州市内の県立高校はすべて訪問した。 県内・県外とも昨年度より訪問数を増やし、昨年度の51校より30校多い81校を訪問した。 また、予備校も昨年度と同数の14校を訪問した。 ○数値目標 ・出前講座 1校実施 アンケート未実施 ・高校訪問 県内:48校 (H19 35校) 県外:33校 (H19 16校) 任意でアンケート実施、概ね高評価 ・予備校訪問 14校 (H19 17校) ・入試説明会 9回 アンケート未実施(合同説明会のため)一般入試 ・志願者数(倍率) 255名(3.3倍) ・受験者数(倍率) 232名(3.0倍) AO入試 ・志願者数(倍率) 76名(4.5倍) ・受験者数(倍率) 76名(4.5倍)	A	高校訪問の数や入試説明会の参加回数を昨年度より大幅に増加したことにより、A評価とする。		15	

		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト：無・有(2→1・ 1→2)								
3.教育の質の改善	10	【教育活動の評価の実施及び任期制の導入】 ①学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させる。 ②個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映する。 ③任期制を導入する。	10 -1	【学生・同僚による授業評価の導入】 ○教員の教育能力の検証のために、「学生による授業評価」に続いて「同僚による授業評価」を個人業績評価に本格導入する。 ・「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」を教育にフィードバックする。	1	・「同僚による授業評価」は、H19ではトライアルとして部局長4名が全教員の授業評価を行い、評価書の適性度のチェックを行った。H20では、全ての科目について、9名の講座長が講座内各分野の教員の授業を評価を実施した。また、その結果は「学生による授業評価」とともに個人業績に反映させた。 ・「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」の結果を各教員に示し、改善策を提示させた。	B	年度計画を十分に実施している。		16
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト：無・有(2→1・ 1→2)								
		【個人業績評価の研究費と給与への反映】 ○昨年度の初実施の経験を踏まえ、本学に合う給与反映方式に改善する。 ・初年度の「三大学共通」を優先させた運用から、優れた評価結果に報いる本学らしい方式の採用を検討する。 ・「全額累積加算」の廃止により、月給制と処遇上大きな差のなくなった任期制への給与反映面でのインセンティブ向上を検討する。 ・前年度実績を評価した教員に対して研究費の反映させる。	10 -2	・評価結果を給与配分に反映させるシステム(「特別賞」(評価点数の総合平均点以上の者で、前年度に比べ評価点向上した教員に上乗せ支給する。))を作り運用した。 ・任期制教員への給与反映については他大学と引き続き協議している。 ・実績を示す文書を提出させ前年度実績を踏まえた研究費配分を行った。	1		B	年度計画を十分に実施している。		17
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト：無・有(2→1・ 1→2)								
		【任期制の充実】 ○任期制導入後3年目となり、「任期制教員再任基準」の策定等制度運用上の環境整備を行い、その内容を公開する。 ・制度運用上未整備となっている再任に係る基準並びに審査方式等定め公開する。 ・「全額累積加算」廃止に伴う意向確認で月給制復帰を希望した2名を除く合計6名の月給制承継教員に対しては、期末に任期制同意の意向照会を実施する。	10 -3		1	・第13回理事会で「任期制教員再任基準」を決定し、内容を全学説明会で説明した。 ・任期制同意の意向照会を実施したが、6名の月給制承継教員から変更の意思表示はなかった。	B	年度計画を十分に実施している。	28	18
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト：無・有(2→1・ 1→2)								
	11	【FDの推進】 教員の資質の向上を目指して企画・内容を精選し、効率的なFDを推進する。	1 1	○学部長のもとに設置されたFD委員会で、教育の改善に向けてFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・教育に関する適切なテーマを設定する。 ○数値目標 ・FD活動の教員の参加率を100%に近づける。	2	・昨年度は2回のFD開催で不十分であったため、今年度は学生に関わる諸問題を中心に10回のFD活動を行い、参加率100%を達成した。 ・とくに、教務関連FDでは、土曜日(10月25日開催)にFDワークショップを開催し、教育手法についての情報を提供し、教育へのフィードバックを図った。	A	休日にワークショップを開催した結果、全員参加を達成(参加率を100%)したため、年度計画を上回って実施している。	11	19
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト：無・有(2→1・ 1→2)								

4. 学生への支援	12	【学生相談・助言・支援の組織的対応】 学生にITアカウントを与え、学習についての相談や教育・教務関連情報の連絡に使用する。	12	○学内ネットによる学生相談や教育・教務関連情報連絡システムを普及させる。 ・学内ネットを活用した学生福利厚生活動を展開する。 ・学生ポータルを活用した授業を増やす。	1	・教育教務関連システム上で、セクハラ・パワハラ・人権等各種相談情報を広報した。 ・教育教務関連システムにより、学割証を迅速に交付できるようになった。 ・学生支援班カウンターに学生意見箱を設置したことで、教員と学生間のみならず、職員と学生間の連絡も密になり学生福利厚生運動が向上した。さらに「なんでも相談室」を設置し、月5件の相談を受けた。 ・学生ポータルを活用した授業が2つ増加(1 → 3)した。	A	「なんでも相談室」を設置したことで、学生のあらゆる悩みに対応できたし、学生にも非常に好評であることから年度計画を上回って実施している。		20
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】					
			ウェイト：無・有(2→1・1→2)							
	13	【就職支援】 卒業・研修後の就職支援体制(リクルートシステム)を確立する。	13	○就職支援体制を充実する。 ・学生が検索できるシステムの利用率の向上(10%の増加) ・求人情報検索用端末の設置を行なう。 ・大学のホームページを活用する。	1	・大学内ホームページで就職先を検索できるリクルートシステムを開発した。歯科大学の特異性で卒業時研修医として就職するケースがほとんどで、一般企業への就職検索の実績はない状況である。現在、研修医終了者がこのシステムを利用し、利用率は5%増加(5%→10%)している。 ・求人情報検索用端末機の設置は終了した。	B	年度計画を十分に実施している。	19	21
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】						
			ウェイト：無・有(2→1・1→2)							
ウェイト総計					24					

【ウェイト付けの理由】 3：歯科教育コアカリキュラムに沿った教育システムの充実を重点目標と位置づけており、新しい臨床基礎実習をより実践的かつ有効なものにする。
7-2：平成21年度入試からAO入試を導入し、歯科医師として適正な人材の確保を目指す。
11：平成20年度、FDプログラムを充実させ、教員の意識と教育手法の向上を重点目標とする。

教育に関する特記事項

H20年9月1日、麻生知事立会のもと、九州工業大学歯工学大学院連携を締結した。平成21年1月、大学院連携をアピールするために、「歯工学連携キックオフシンポジウム」を開催した。口の総合大学を目指し、歯学部になら新たな学科設置に向けて具体的な検討を進めた。	データ番号
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 2. 研究	大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する
---------------	------------------------

項目	実施事項	年度計画	ウェイト	計画の進捗状況	自己評価		データ番号	通し
					評価	理由		
1. 研究水準並びに研究成果の向上	1 【大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分】 ①大学の方針に基づいて、分野内あるいは枠を超えた複数分野の研究者の連携で研究を活性化する。 ②現在の画一的な学内研究費予算配分を見直して、大学運営に貢献する研究成果に応じた配分を行うとともに、その研究費の評価システムを確立する。	1 ○法人化後、見直しを始めた研究費配分の適正度を検証する。 ・研究企画書提出前に前年度の実績評価書の提出を義務付ける。 ・学長研究費の割合を35%に増加させ、若手教員の育成のための資金投入を行なう。	1	・研究企画書提出時に実績報告書の提出を義務付けた。 ・研究企画書に基づいた研究費配分時に、前年度の研究実績を加味することが出来た。 ・学長研究費の割合は37.5%となり、目標を上回って実施できた。若手教員には4件の研究費を配分した。	A	学長研究費の割合が年度計画を上回っている。		22
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)						
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
2	2 【研究の事後評価・検証システムの構築・実施】 研究活動の評価・検証システムを確立して、研究者の意識を高めるとともに、毎年、各研究者の研究活動を公表することにより情報公開を実施する。	2 ○これまでの研究活動の評価・検証システムを検証する。 ・各研究者の研究活動を公表(全教員を対象とする) ○数値目標 ・論文数 70件以上(外国雑誌) ・学会発表数 10件以上(国際学会) ・特許・実用新案権件数 2件以上	1	・個人業績評価時の付属書を用いて研究の実績評価を行った。 ・各自の研究成果をホームページで開示した。 ○数値目標 ・論文数 75件(英文) ・学会発表数 15件(国際学会) ・特許・実用新案権件数 4件	A	数値目標のすべてで件数を上回って実施している。	21	23
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)						
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
3	3 【外部研究資金の獲得】 研究資金を積極的に獲得する。	3 ○外部研究費の増加を目指すとともに、大学として組織的に研究費獲得を推進する。 ○数値目標 ・科学研究費・年間50件以上 ・受託研究費・共同研究費・奨学寄附金(産学官連携分を除く) 年間10件以上 (外部資金収入額 1億円)	2	・紙ベース等様々な媒体でくる研究費の情報を、事務局が電子メールで全教員に発信し情報提供を行った結果、研究費の申請件数が増加した。 ○数値目標 ・科学研究費 61件 136,130千円 ・委託研究費・共同研究費・奨学金寄附金 23件 26,939千円 ・外部資金合計 163,069千円	A+	科学研究費、委託研究費等で数値目標の件数を大幅に上回って実施している。	24	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)						
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
4	4 【産学官連携の推進】 歯学関連企業だけでなく、一般企業ならびに学内諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を生かした連携を推進する。	4 ○他分野にも注目される研究を展開して、福岡県内の産業に貢献する研究を展開する。 ・産学連携フェアへの積極的な参加 ・年間産学連携件数を5件以上 ・寄附講座の開設をめざしてスポンサー探しに取り組む	1	・産学連携フェアで4件の新技術を出展した。 ①簡便で安価な骨の位置決め装置 ②障害者用自動口腔洗浄装置 ③超音波診断装置を用いた腫瘍切除範囲の確認法 ④曳糸性測定器の高齢者医療・介護保健の臨床現場への応用 ・年間産学連携件数 6件(1件継続・5件新規) ・産学官連携が進み臨床への応用できる機器を開発することができた。	A	年度計画以上に県内の産業、企業に役立つ研究成果があり、連携件数はを上回って実施している。	22	25
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決定)	【意見・コメント等】			
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)						
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
ウェイト総計			5					

【ウェイト付けの理由】 3:平成19年度までの外部資金獲得は科学研究費補助金が主体であったが、平成20年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。

研究に関する特記事項

若手教員2名の研究論文が本邦歯科学会において表彰された。(小児歯科学会優秀論文賞、日本歯科医学会学術賞)		データ 番号	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】		

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 3. 社会貢献	大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する
-----------------	------------------------

中期計画		年度計画	ウェイト	計画の進捗状況	自己評価		データ番号		
項目	実施事項				評価	理由			
1. 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施	1 【e-learningシステムを活用したリカレント教育の充実】 e-learningシステムを使用して歯科医師、医療従事者対象のリカレント教育を行う。	1 ○「Q-shidaiゼミ」をリカレント教育素材として用い、良質なプログラムを発信する。 ・e-learning の後方支援事務体制を確立する。 ・「Q-shidaiゼミ」によるデモプログラム公開提供をとおして、これに対する反応分析を行う。 利用者数 150人 内容に対する満足度 50%以上 ・e-learningを含むリカレント教育を企画する本学にふさわしい組織体制を整える。	2	・Q-shidaiゼミについて、今年度10件の番組をデモ版として提供した。 (内容:口腔ケア 6本、緊急蘇生 4本) デモ版は誰でも閲覧可能な無料サイトであり、閲覧のためにID等は発行していないため、利用者は把握できないがアクセス数は、2,746件(半期分)に上った。また、学生や研修医に対してプログラムに対する満足度のアンケート実施した結果、84%の満足度の回答を得た。 ・20年度は、Q-shidaiゼミの有料化に向けて検討を継続した。	A	利用者数や利用者アンケート調査の満足度の数値が年度計画を上回って実施している。	26		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)									
	2 【歯科医療情報の提供】 ①ホームページによる歯科医療情報(診療科及び診療内容など)の提供を充実させる。 ②北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院として、診療所では対応困難な歯科医療、または診療情報を提供する。	2 ○北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院としての役割を担うために、診療所では対応困難な歯科医療や診療情報の提供を積極的に行う。 ・情報提供の一環として、病院歯科の診療内容、各種疾患の受け入れ状況、各病院への紹介方法を記載した病診連携パンフレットを作成・配布する。 ・北九州・筑豊生活圏の歯科診療所に大学のホームページの活用を促すとともに、病院、診療所の連携アップを図る(対前年比1%増)。	1	・附属病院の主要業務範囲となる北九州・筑豊生活圏に所在する1,395の歯科診療所に、新たに作成した病診連携パンフレットを配布した。 ・病院総患者数に対して紹介状による患者数の紹介率は、H20年度 40.1%となり増加した。(H19年度実績:38.0%) 紹介患者数 H19年度:1,875件(新患総数 4,932件) H20年度:4,214件(新患総数 10,501件) ※H19年度中は病院周囲の整備が途上であったが、H20年度には整備が終わり駐車場も確保されたことや、インプラントの先進医療取得により高度治療の新患者が増加したと考えられる。	A	患者紹介率が前年より増加したことで、年度計画を上回って実施している。	27		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)									

通し

3	【研究成果の地域への発信】 ①各種イベント及び報告会を利用して地域に向けての研究成果を継続して報告していく。 ②市民公開講座による研究成果の公表を行う。	3-1【研究成果発表】 ○各種イベント及び報告会を利用して地域に向けて研究成果発表を行う。 ・本学独自の「重点学術研究報告会」を研究者、医療従事者、一般住民に対し開催し、アンケートにより評価を受ける。 ・行政機関及び地元医師、歯科医師会に働きかけ、地域イベントへ参加し研究成果の発表機会を確保する。	1	・「平成20年度九州歯科大学学術研究費重点配分」報告書を作成し配布した。 ・九州歯科学会総会で本学の15名の研究者の研究成果を発表した。(参加者120名) ・今年度期事業として平成20年度歯工学連携キックオフシンポジウム(参加者:100名)を開催し、「歯工学連携の目指す生活の質(QOL)の向上」を刊行した。 ・11/21(金)「変色歯への対処法」(小倉歯科医師会主催) 講師 参加者:61名	A	年度計画を上回って実施している。	28	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】 【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) ウェイト : 無・有(2→1・ 1→2)		(決定)	【意見・コメント等】			
3	【研究成果の地域への発信】 ①各種イベント及び報告会を利用して地域に向けての研究成果を継続して報告していく。 ②市民公開講座による研究成果の公表を行う。	3-2【市民公開講座】 ○市民公開講座による研究成果の発表を行う。 ・学内開催する歯科公開講座で、参加地域住民のアンケートを集約し、受講者の満足度が50%以上とする。 ・北九州市内4大学法人(九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学)の「4大学スクラム公開講座」の継続実施し拡充する。(400名以上)		・本学が主宰する市民公開講座「パドミントン教室」が20周年を迎え記念行事を行った。 ・4大学スクラム(会場 産業医大ホール) 11/22(土)産業医大担当:87名 12/6(土)九州工大担当:35名 12/14(日)北九市大担当:59名 12/14(日)九州歯大担当:44名 ※20年度は産業医科大が開催担当 本学担当講座のアンケートでは、「満足」「やや満足」の合計が70%であった。 H19実績 4日開催 参加者300名 会場:歯科大	B	市民講座の取り組みは年度計画通りに実施している。4大学スクラム公開講座については、昨年度は会場の立地(産業医大であり交通不便)及び悪天候により、人数が減少した。	23	29
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】 【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) ウェイト : 無・有(2→1・ 1→2)		(決定)	【意見・コメント等】			
4	【アジア等を主眼においた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助(口腔外科・保存・予防措置を中心として)に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進	4-1【発展途上国に対して歯科医療技術援助】 ○発展途上国に対して行っている歯科医療技術援助を継続して行う。 ・ネパール、チュニジアにおける活動を継続し、東南アジアでの新たな拠点における歯科医療支援活動の展開を検討する。 ・本学学生の国際貢献活動の促進を図る。 ・本学国際貢献活動の全容を学内に周知させる。 ・ネパール歯科医療支援事業20周年記念式典を開催する。	1	・東南アジアの新たな拠点を検討している。(ベトナム、カンボジア等) ・ネパール歯科医療協力会の技術援助隊(22次)第1回目 8/22~8/31中村准教授一行5名 第2回目12/23~1/4 中村准教授一行7名 ・協力隊には学生の参加も推進しており、4名が同行した。 ・チュニジア歯科医療技術援助 2/6~2/16高橋教授他5名 ・ネパール歯科医療支援事業20周年記念式典は、20年11月に大学講堂において、300名余の参加者で開催された	B	年度計画どおりに実施している。	25	30
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】 【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) ウェイト : 無・有(2→1・ 1→2)		(決定)	【意見・コメント等】			
4	【アジア等を主眼においた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助(口腔外科・保存・予防措置を中心として)に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進	4-2【留学生交流と海外大学との学術交流推進】 ○現在在籍する留学生をとおして国際交流及び海外大学との学術交流を推進する。 ・学内留学生に対して、イベント等の情報提供を行う。 ・学術交流協定締結大学と今後の活動について、意見交換を行う。	1	・外国人の教員は、3名(中国2名韓国1名)で、留学生は、学部留学生2名(韓国2名)と大学院留学生3名(中国1名、台湾2名)を受け入れている。 ・海外の歯科医療技術援助隊の計画、帰国報告会の情報提供を行った。 ・福田理事長が10月に、学術交流締結大学(中国:同済大学)を訪問し、今後の交流拡大について協議した。留学生数:5名 学術交流大学:国外 2大学	B	年度計画どおりに実施している。	24 25	31
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】 【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) ウェイト : 無・有(2→1・ 1→2)		(決定)	【意見・コメント等】			

		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】				
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト：無・有(2→1 ・ 1→2)				
5	【地域住民の健康増進のため保健プログラムの構築と活用】 ①福岡県民を対象とした口腔保健及び全身の健康に関する保健プログラム・データベースの構築 ②健診事業、データ入力及び集計に関して、一括して行う体制を構築する。	5 ○福岡県民を対象とした、地域住民の健康増進のための健診プログラムを継続して展開する。 ・モデル地区の地域診断を実施するのに必要な情報を得るため調査データの解析を継続して行うとともに、広報誌「福岡8020ニュースNO2」を発行し啓発活動を行う。	1	○県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(NO2)」に掲載し、関係機関(県内歯科医師会会員等)に配布し、地域住民へ啓発活動を行った。 ○市町村の受託件数は、みやこ町(京都郡の3町勝山、犀川、豊津が合併した町)の1町のみである。	B	年度計画どおりに実施している。
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】				
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト：無・有(2→1 ・ 1→2)				
ウェイト総計			8			

【ウェイト付けの理由】 1:社会貢献活動の組織的な展開を本学の重点目標に位置づけており、特にe-learningシステムを活用したりカレント教育の充実は、20年度の大きな事業である。

社会貢献に関する特記事項

		データ 番号
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【意見・コメント等】

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 4. 業務運営	理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する
-----------------	----------------------------------

中期計画		年度計画	ウェイト	計画の進捗状況	自己評価		データ番号		
項目	実施事項				評価	理由			
1. 運営体制の改善	1 【予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化】 ①理事長が中心となって策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員の効果的な配分を実施する。 ②大学全体の自己点検・評価に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しと再編成を行う。 ③事務局機能を強化する。	1-1 【予算、人員の効果的配分】 ○大学が策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員を費用対効果を考え効率的な配分を検討する。 ・前年の実績を踏まえて、本大学の教育研究目標に従った効率的な予算配分の実施する。 ・学術研究費学長競争枠の予算の一部を若手研究者のための研究費に充て、研究意欲を喚起する。 ・事務局内の業務分担を見直しするとともに、教育研究活動を支えるための体制強化(学務部人員増)を図る。	1	<ul style="list-style-type: none"> 大学の教育目標(歯科医師の養成等)に沿う予算配分を行った。(時間外の勉学の環境整備として図書館の開放延長の予算追加) 歯科医師国家試験の合格率向上を目指し、目的積立金を利用して支援システムを導入した。 科学研究費の学長競争枠予算の10%(3,000,000円)を若手研究者に有効な研究費として配分した。 献体解剖や科研費など、本来学務とすべき業務が総務班の所管となっていたため、事務が非効率になっている状況の事務分担の見直し、総務から教育研究部門に業務を移管し、人員も総務の1名を減員し、学務へ1名増員配置した。 	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	33		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		ウェイト: 無・有(2→1・1→2)							
		1-2 【事務局機能の強化】 ○機能的・弾力的な組織運営を行うための事務局体制を検討し、整備する。 ・事務局体制整備・機能強化を図り、県立三大学の共通課題を前年度に引き続き協議する。 ・本年度は、前年度の協議経過等を踏まえて財務会計業務のアウトソーシングを進めることを検討する。 ・病院における苦情処理及び診療費未収金の回収並びに財務会計・決算事務の円滑な対応のために、知識・体験の豊富な人材を嘱託職員をして配置する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県立三大学事務担当者会議(20年度:2回開催)を作り、三大学の共通の課題について協議検討し、事務改善の参考とした。 増大する業務に対応するため、嘱託職員を積極的に採用するとともに、事務処理の工夫、効率化を促進した。 事務局の各部の事務分担を見直すことにより、専門的に稼働できる体制となり、円滑な事務運営が可能となった。 事務局職員の時間外勤務は、縮減することができた。(対前年比 3,100時間減) H19年度:8728H H20年度:4755H 財務会計、決算事務については、外部委託する方針が決定した。 H20年6月に病院の苦情及び未収金回収に当たるフルタイム嘱託職員を配置した。 病院に対する苦情処理の対応 ・対応件数 158件 診療費の未収に対する督促・回収実績(嘱託職員) 未収金 295件 938,329円 	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	34		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		ウェイト: 無・有(2→1・1→2)							

通し

2	【安全管理体制の充実】 ①学生や教員の実験・実習・災害時等の安全対策を実施する。 ②ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ③院内感染及び医療事故に関する講習会を開催する。	2-1	【安全対策の実施】 ○全学挙げて、安全対策を実施するとともに、職員の健康対策を考える。 ・安全防止委員会を設置して、防災計画等の策定に向けて協議する。 ・防災訓練をすることで、学内の危機管理意識を向上させる。 ・職員の健康管理維持や家族の団欒形成などの時間を作るため、ノー残業デーの推進を図る。 ・健康管理室の主導で、救命救急に関する講習会を開催する。	1	・目標の「安全防止委員会」設置要綱を作成し、防災計画に対応する体制を作った。 ・防災訓練 実施日:12月10日 ・職員の健康管理上、ノー残業日を実行したことにより、時間外勤務の時間数を削減することができた。 (対前年比:3,100時間縮減) ・新入生オリエンテーションにおいて、救命救急に関する事項をくわしく説明した。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	35	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)									
2	【事故防止対策の実施】 ○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を2回以上開催する。	2-2	○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を2回以上開催する。	1	・事故防止のために、計画どおり委員会を開催し、結果を職員へ周知した。 リスクマネジメント部会 毎月:1回 年間12回 院内感染部会 毎月:1回 年間12回 医療事故予防対策委員会 毎月:1回 年間12回 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を実施した。 講習会 年2回:6月13日、3月26日 ・上記の対策を実施した結果、今年度中に院内感染あるいは医療事故はなかった。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	36	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】				
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)									
2. 人事の適正化	3	3	○教員個人業績評価システムのブラッシュアップに取り組む。 ・同僚による授業評価を本格導入する。 ・教員による大学運営への積極的に参加を促すための制度の評価対象項目を拡充する。 ○昨年度の初実施の経験を踏まえ、本学に合う給与反映方式に改善する。 ・初年度の「三大学共通」を優先させた運用から、優れた評価結果に報いる本学らしい方式の採用を検討する。 ・「全額累計加算」の廃止により、月給制と処遇上大きな差のなくなった任期制への給与反映面でのインセンティブ向上を検討する。	1	・本年度から導入した「同僚による事業評価」を個人業績評価システムに反映させた。 ・業務評価項目に大学運営に係る各種委員会(学内主要委員会)活動等を加えたことで、従来は参加率が悪かったが、教員の積極的な参加を促す結果となった。 ・本学独自の評価基準を考え、特に業績に改善が見られた教員に対しては、「特別賞」として上乘せ支給した。 ・「全額累計加算」の廃止に代わる任期制への給与反映については、他大学と引き続き協議している。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	37	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】									
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)									

4	【任期制の導入】 ①全教員を対象とした任期制を導入する。	4	○任期制導入後3年目となり、「任期制教員再任基準」の策定等制度運用上の環境整備を行い、その内容を公開する。 ・制度運用上未整備となっている再任に係る基準並びに審査方式等定め公開する。 ・「全額累計加算」廃止に伴う意向確認で月給制復帰を希望した2名を除く合計6名の月給制承継教員に対しては、期末に任期制同意の意向照会を実施する。	1	・「任期制教員再任基準」は、第13回理事会(H21.3月開催)において制度決定し、全学説明会及びホームページで内容を公開した。 ・月給制承継教員(6名)に対して、任期制同意の意向打診を行ったが、変更を申し出る教員はいなかった。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。	28	38			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】										
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】						
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)										
ウェイト総計				7								

【ウェイト付けの理由】 1-2法人の事務に機動的・弾力的に対応できる体制の確立が本学の重点目標である。特に人事、予算、給与等の管理部門の充実と、附属病院の管理運営を司る部門の強化が不可欠となっている。

業務運営に関する特記事項

		データ
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【意見・コメント等】

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 5. 財務	経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う
---------------	-----------------------

中期計画		年度計画		ウ ェ ィ ト	計画の進捗状況	自己評価		データ 番号	通し
項目	実施事項					評価	理由		
1 自己収入の増加	1 【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②未納金に対する取り組みを強化する。	1	○学生納付金の確保のため授業料等未納金に対する取り組みを強化する。 ・未納者に対して、呼び出し連絡(学内掲示)、事情を把握したうえで、納付指導を徹底する。 ○数値目標 ・教員・事務局職員で連絡会を作り情報を共有し、督促業務を行い収納率100%をめざし未収金の解消を推進する。 ○学部棟の新施設利用と維持費の実費の一部について、受益者負担の可能性を検討する。	1	・授業料等未納者に対して直接納付指導を行った結果、H20年度は学生、大学院生に滞納者は発生しなかった。したがって連絡会の開催はしなかった。ただ、専修生の滞納者(1名)が発生したため収納率100%とはならなかったが、学位取得のための専修生であり、滞納に至る事情も把握されていたため、この件に対する連絡会を開催する必要はないと判断した。 ・今年度の収納率: 99.1% ・受益者負担については、新本館への移転に伴い、パソコン教室・図書館の利用者負担導入の検討を行った。しかし、他大学の調査をするも同様の例は無く、公立大学という性質も考慮すると負担金の導入は困難であるとの結論となり断念した。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に実施された。	29	39
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決 定)	【意見・コメント等】				
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)							
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							
2	【診療報酬の確保】 ①患者照会率の向上を図る。 ②人間ドック、歯科ドックなど健診分野での収入増を図る。	2-1	【患者紹介率の向上】 ○患者紹介率35%以上を維持する。 ・近隣の医師会及び歯科医師会を訪問し、各会員へ患者紹介の依頼を行う。 ・紹介方法についてホームページを充実させる。	1	・H20年度の実績は、新患者総数:10501件に対し紹介患者数:4214件となった。 紹介率 40.1%(H19年度実績38.0%) ・病院長が近隣歯科医師会を訪問し、リーフレットを配布のうえ照会を依頼した。 また紹介患者には初診受付時間を延長した予約の受付を可能とするなど便宜を図るとともに紹介医師に対して診療結果の的確迅速な報告を励行した。・ホームページに病院の臨床科等の情報を掲載。紹介方法についての掲載方法や様式を検討し、H21年度には掲載する予定。	A	患者紹介率が前年より上昇したことにより、年度計画を上回っている。	40	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決 定)	【意見・コメント等】				
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)							
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							
		2-2	【健診分野での収入増】 ○歯科ドックをPRすることや、人間ドックなど健診分野で対前年比10%の収入増を図る。 ・人間ドックのほか特定健診その他の健診事業を新たに展開する。 ・歯科ドックや歯科健診事業の拡大を図る。	1	・病院長が近隣歯科医師会及び公的共済組合を訪問し、人間ドック、歯科ドック及び歯科健診の働きかけを行った結果、今年度から口腔保健協会での歯科健診が開始された。 ・人間ドック H20年度実績:722,715円 (H19年度実績:722,085円) ・歯科健診 H20年度実績 823,845円 (H19年度実績:853100円) ・かねてからの念願であった大腸ガン、前立腺ガン・肝炎ウイルス、胃がんの特定検診をスタートさせた。 H20年度実績額:37,820円	A	歯科検診の対象団体を1機関増やしたこと、一般特定検診を開始できたことにより、計画を上回って実施された。	41	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		(決 定)	【意見・コメント等】				
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)							
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							

		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)				
3	【施設設備の有効活用等】 ①共同研究室、教室等の施設設備を有効活用し収入増をはかる。 ②e-learningによる収入増を図る。	3 ○大学の共同研究室、会議室、講堂棟の施設設備を積極的に宣伝するとともに、他大学、企業等に有料で提供し、有効活用及び収入増を図る。 ・解剖等(実習棟)などの施設設備を利用した外部に対する研修の有料化を進める。 ・施設自動車駐車場の有料化を具体的に検討する。 ○リカレント教育をネットワークを利用した有償事業として、「Q-shidaiゼミ」を行う体制を整備する。	1	・解剖等で施設設備を利用した場合の施設使用料金徴収規程を作成した。 ・施設自動車駐車場の有料化について、他大学の実態を調査した結果、公立大学の使命・目標に沿わないと判断して保留とした。 ・Q-shidaiゼミは、歯科医療の社会的使命や卒業研修のあり方について、無料版を中心に提供する方向で検討している。 現在、教員1名と事務職員1名が情報管理担当として情報収集を行っている。 有料版は、視聴者の反響及び法人で管理する著作権料、ユーザーサポートの事務負担を加味して検討している。	B	年度計画の目的を達成している。
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】						
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)				
4	【外部研究資金の増収】 研究の活性化のために、科学研究費補助金、各種研究開発事業助成金、企業からの共同研究費、受託研究費、奨学寄附金の獲得及び知的財産を利用した収入増を図る。	4 【外部研究費の増加及び知的財産を利用した収入増】 ○外部研究費の増加を目指すとともに、大学として組織的に産学連携の視点に立って研究費獲得を推進する。 ○知的財産を利用した収入増を図る体制を構築する。 ・北九州産業学術推進機構(北九州TLO)を活用し、特許の申請および運用を促進する。 ・埋もれている知的財産をいか利用できるか考えて、重点的に企業との連携に積極的に取り組む。 ○数値目標 外部資金収入 1億円	2	・外部研究費獲得状況結果 ・H20年度実績額 84件 163,069千円(35.1%増) ・H19年度実績額 71件 120,721千円 ・当年度から文科省科研費の間接経費の支給範囲が拡大され法人の財務運営に大きく寄与した。 H20年度実績:26百万円 H19年度実績:16百万円 ・学術振興科学研究費以外に厚生労働省科学研究費を3件獲得した。 ・北九州TLOを活用し、特許申請を行った。 20年度の特許 申請 6件 取得 4件 ・知的財産使用収入額 57千円 (H19年 28千円)	A+	外部研究費の獲得額で年度計画を大幅に上回って実施している。
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】						
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)				
2経費の抑制	5 【人件費の抑制】 ①設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。 ②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。	5 ○今年度運営交付金算定上の人件費(退職金を除く)1.893百万円以内の運用に徹する。 ・教員数については、教員の質維持を厳守しながら中期期間中に設置基準までの削減を念頭に、慎重に退職者補充と組織再編を進め、厳しい要員管理を継続する。 ・事務要員については、増加する業務への円滑処理を優先させ中期的展望にたった効率化策を検討し、外部パワーの積極登用も含め適正要因配置に努める。	1	・人件費(退職金を除く)は、1,851百万円に抑制できた。 ・前年度に廃止された摂食神経科分野所属の教員2名を総合科学分野の担当とした。また総合歯科分野の担当教員を歯科保存分野に配置換えし、大学全体のバランスを考慮した教員の適正配置に努め設置基準の管理運営を行った。 ・病院事務を外部委託として、円滑な事務の執行を進め、また会計事務も外部委託とする方向で検討を進めた。 ・業務内容の見直しと内部努力の結果、時間外手当額を大幅に抑制することができた。(対前年比:7053千円削減) H19年度:32,473,911円(うち事務局:22,973,375円)H20年度:25,420,790円(うち事務局:	A	人件費の抑制については、病院事務を外部委託し、甲斐敬事務も来年度から外部委託する準備を行ったこと、また、時間外手当も大幅な抑制ができ、年度計画を上回って実施している。
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】						
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)				

42

43

44

6	【職員の意識改革、経費の節減】 ①附属病院において、診療科ごとに患者数、収支を把握し、これを職員ひとり一人に周知することにより、経営に関する意識改革を進める。 ②高熱水費、コピー経費、その他の経費の節約を全教員へ周知徹底する。 ③九州工業大学、産業医科大学との学術交流協定に基づき設備を相互活用することにより、設備の有効利用、設備費削減を図る。	6-1	【職員の意識改革】 ○教員、職員すべてに対し、経営に関する意識改革を推進する。 ・役員と班長以上の意見交換会等を通じて、法人職員としてのあり方や意識を醸成する。 ・理事長自ら中期計画、惑いは法人職員の心構えなどを全学説明会や新任の教職員のオリエンテーションなどを通じて周知に取組み意識改革に努める。	1	・役員と事務局役付者との意見交換会(年4回)を開催し、直接役員の考え方を知ることができた、また教員については職位別に理事長と意見を交換する機会を設定し(各1回)現場の声を反映することができた。 ・理事長による全学説明会(年7回)や新任教職員のオリエンテーション(2回)を開催して、法人の理念や目的を十分に周知徹底することができた。	B	年度計画の目的を達成している。	45		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】	ウェイト : 無・有(2→1・1→2)			
3.附属病院経営の改善	7	【地域医療サービスの向上の推進】 ①摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ②歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。 ③患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。	6-2	【経費の節減】 ○新本館移動による新環境下の経費実態を示し職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・今年度の焦点は原油暴騰による光熱費急騰への対応にあり、肌理細やかな省エネ策を講じる。 ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応が急務であり、実態分析と抑制策策定を行う。 ・新環境下の法人経費実態を決算終了次第全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。	1	○教職員の意識改革となる出勤管理システムの導入及び試験的運用を開始した。 ・これにより、ペーパーレス、出勤簿の押印などの事務が省力された。 ・21年度から本格導入する予定である。 ・規定の勤務時間外の消灯やエレベーターの稼働時間制限、待機電力の抑制などを行ったが、原油高騰などの影響で経費の節減にいたらなかった。 ・診療材料費については、SPDシステムの委託業者からデータを手取りできるようにし、ぶんせきちゅうである。 ・6月の全学説明会で本法人の経費構造を説明し、経費節減への協力を求めた。 ・光熱水費 213,113千円 対前年比 +5,8% ・コピー用紙 1,255千円 対前年比 +31,4% ・材料費296,935千円	A	経費の節減には精力的に取り組んだが、石油等の原価高騰の影響で実績を下回った。しかし、長年の懸案であった出勤システムを導入したことにより、離れた場所にある病院と大学のサービス管理が集中してできるようになり、業務の削減にh上に効果があったので、年度計画を上回って実施している。	31	46
			(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】	ウェイト : 無・有(2→1・1→2)		
3.附属病院経営の改善	7	【地域医療サービスの向上の推進】 ①摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ②歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。 ③患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。	7-1	【摂食・嚥下リハビリテーションの実施】 ○摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ・摂食・嚥下リハビリテーションの意識を患者並びに患者家族に説明し、患者の満足度の向上に努める。 ・入院患者に対する口腔ケアの指導を積極的に行い、実績数を増加する。(対前年比 10%増) ○数値目標 ・患者紹介率 35%以上 アンケート満足度 70%以上	1	・病棟入院患者に対して口腔ケアの指導を積極的に行っており、H20年度実績は延べ275名であった。 (H19年度実績:220名) ・摂食機能リハビリテーション科(高齢者歯科)において、前年度に比べ患者数で約、収入で増加した。患者数 H19年度:220名 H20年度:275名 →25%増加 収入額 H19年度:407,000円 H20年度:728,750円 →79%増加 ・H20年度実績は、新患者総数:10,501件に対し紹介患者数:4,214件となった。【40に同じ】 ・紹介率 40.4%(H19年度実績38.0%) ・高齢者歯科入院患者に対するアンケート(手渡し、郵送方法)による満足度は、80%であった。(実績数32名)	A	患者数、収入額が年度計画を上回っている。	47	
			(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】	ウェイト : 無・有(2→1・1→2)		

7-2	<p>【訪問診療体制の導入】</p> <p>○歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療、病診連携、病病連携の体制構築を引き続き検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携病院数の増加を図る。 ・訪問診療件数の把握と件数の増加を図る。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡東病院及び小倉リハビリテーション病院と連携し、訪問診療を定期的に行っている。 ・訪問診療件数 H20年度381件 H19年度195件 ・訪問診療件数の増加に対応して、往診器具一式を追加購入した。 ・新たな連携可能病院を現在照会しているところである。(歯科医師会の調整により、施設は他病院が訪問診療を行っているため、ある一定規模で長期入院者数が多い病院を探す必要がある) 	A	訪問診療件数が前年度より大幅に増加させ、年度計画を上回った事業実施である。	48
(評価委員会)						
【報告内容に関して確認した事項】						
【自己評価・ウェイトの修正の有無】			(決定)	【意見・コメント等】		
自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)						
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
7-3	<p>【地域住民との懇談会】</p> <p>○地域住民との懇談会を企画し、患者のニーズを引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種講演会やロビーコンサートなどを開催し、集まった地域住民から病院への要望や歯の悩みなどを聴取する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との懇談会の設置を念頭に18年度に規程を作成したが、まず地域住民との直接の接触を優先させ、住民の意識確認を行うことが重要と判断し、懇談会に係る計画の実施を翌年度以降に先送りとなった。 ・病院でロビーコンサートを開催し、相談コーナーを設け、歯の悩みなどの相談を受けた。 	B	年度計画の目的を達成している。	49
(評価委員会)						
【報告内容に関して確認した事項】						
【自己評価・ウェイトの修正の有無】			(決定)	【意見・コメント等】		
自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)						
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
7-4	<p>【ボランティアの受け入れ】</p> <p>○ボランティアの受け入れを継続するとともにさらなる展開を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの内容について現在実地している以外にどのようなものがあるか検討する。 ・運用規程に基づき、継続して実地する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティアを募集し、附属病院の受付に配備し、外来患者の接遇を行った。 ・ボランティアの分野について、検討したが適切なものがなく現状のままである。 	B	年度計画の目的を達成している。	50
(評価委員会)						
【報告内容に関して確認した事項】						
【自己評価・ウェイトの修正の有無】			(決定)	【意見・コメント等】		
自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)						
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
7-5	<p>【健診業務】</p> <p>○歯科健診センターによる口腔健診業務を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施分の継続実施に努め、さらに新規開拓を検討する。 ・患者アンケートを実施して、教職員の対応やサービスが70%以上名満足しているか確認する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・みやこ町(147名)、西南女学院(358名)に加えて、今年度は口腔保健協会(2名)においても健診を行った。 ・アンケートの実施結果 満足度78%(実績数334名) 	B	年度計画の目的を達成している。	51
(評価委員会)						
【報告内容に関して確認した事項】						
【自己評価・ウェイトの修正の有無】			(決定)	【意見・コメント等】		
自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)						
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						

8	【経営の効率化を推進するためのシステムの構築】 ①教職員の適性配置を行い、専門外来(口腔外科や歯周病科など)における先進医療を進める。 ②治療夜間後の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカル・パス(標準的な臨床指針)を導入する。 ③附属病院の薬剤業務を院外処方にし、薬剤師は入院患者への薬剤情報提供を専門に行い、入院患者へのサービスを図る。 ④附属病院のホームページを利用した診療に関するサービスを提供する。 ⑤歯科材料を効率的に流通させるシステムを導入し、材料費の削減を図る。	8-1	【先進医療の推進】 ○教職員の適性配置を行い、専門外来(口腔外科や歯周病科など)における先進医療を進める。 ・先進医療の認定取得に勤める。	1	・長年の懸案であった先進医療2件(インプラント、歯周病)を取得することができた。	B	年度計画の目的を達成している。	52		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】								
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)								
		8-2	【クリティカル・パス】 ○治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカル・パス(標準的な臨床指針)を導入する。 ・検討会を設置し、各診療科のパスにていて問題点を抽出する。 ・全診療科共通の実施マニュアル作成を行う。	1	・各診療科のマニュアルの上にとって全診療科共通のマニュアル作成を進めている。 ・H19年度の保存に加え、H20年度は口腔外科、補綴と外来患者に占める割合の大きい診療科に対するクリティカルパスがほぼ完成した。(全18科中3科) ・各診療科のマニュアルのパスの問題点の抽出については、専門分野の領域のため、各医師で意見が異なる部分があり、20年度中に調整ができない部分があった。 ・各科のマニュアルが完成した後、内容を統一化し、全診療科共通のマニュアルを作成する予定である。	B	年度計画の目的を達成している。	53		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】										
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)										
		8-3	【ホームページの活用】 ○附属病院のホームページを利用した診療に関する充実した情報サービスの提供を検討する。 ・見やすく操作しやすいホームページについて検討する。	1	・新技術や治療法に関してホームページの更新を随時行い、情報サービスの提供を行った。	B	年度計画の目的を達成している。	54		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】										
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)										
		8-4	【効率的な歯科材料流通システムの導入】 ○医科・歯科材料費のムダを省き、効率的な予算執行を継続する。 ・医科・歯科で利用する同種材料にていて詳細に検討し、できる限り安価で上質の材料に一本化を図るとともに、これにより不必要となる材料の購入を中止する。	1	・物品供給管理室(S. P. D)の設置以来材料を徹底的に見直しており、不必要材料の中止、同種材料の統一化を効率良く行っている。 ・SPDシステムをへの歯科材料発注の集中を継続した。全材料費に占めるSPD比率(H19年度80%→H20年度81%) ・SPDシステムの活用により病院収入の伸びに比較して低い診療材料費に抑えた。 (H20年度病院収入の伸び 10.7% 診療材料費の伸び 8.4%) ・患者数の増加に伴い、材料費が増加した。 H20年度実績 176,622千円 (病院収入 1,111,514千円中 15.9%) H19年実績額 162,858千円 (病院収入 1,003,780千円中 16.2%)	B	年度計画の目的を達成している。	55		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】										
【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
ウェイト : 無・有(2→1・1→2)										

		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】			
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価：無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)	(決定)		【意見・コメント等】
		ウェイト : 無・有(2→1 ・ 1→2)			
		ウェイト総計	18		

【ウェイト付けの理由】

財務に関する特記事項

中期計画で定めた「剰余金の使途」の主旨に添う案件3件合計 42,712千円に対し、初めて目的積立金を取り崩して充当した。		データ 番号
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【意見・コメント等】

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 6. 評価	評価を厳正に実地し、大学運営に反映する
---------------	---------------------

中期計画		年度計画	ウェイト	計画の進捗状況	自己評価		データ番号	通し	
項目	実施事項				評価	理由			
1. 評価の充実	1 【大学評価・個人・個人業績の充実と評価結果の公表・反映】 ①大学運営に関する自己点検・評価を実地するとともに、県評価委員会と学外認証評価機関が行った評価結果を教育研究や大学運営改善に反映させる。 ②教員の個人業績評価を給与に反映させる。	1-1 【大学自己点検・評価】 ○大学運営については業務評価の自己点検・評価を実施し、平成22年度に予定する外部評価に対しては大学評価部会を中心に準備を進める。 ・大学運営については学内理事の責任で実施し、評価結果を次期年度に反映させ大学運営の改善向上につなげる。 ・自己点検・評価結果は学内外に公表する。 ・大学評価・学位授与機構による外部評価に向けた準備を、大学自己評価部会を中心に組織的に進める。	1	・評価結果の低かった事項について改善を図るため、予算配分や組織の見直しを行った。 (例: 社会貢献活動への助成、情報・広報委員会等) ・大学評価部会が行ったアンケート調査結果を「大学評価部会だより」として隔月に全学へ配布した。 ・自己点検・評価結果を大学のホームページの法人情報として公表した。 ・学長直属の「認証評価委員会」を設置し、大学全体として組織的な取組体制を整えた。 ・大学評価部会は、年12回開催し、平成22年度に予定されている外部評価(学位授与機構)に対応する事務処理の検討を行った。	A	「認証評価委員会」を新たに設置したこと、「大学評価部会だより」を発行し全学へ配布したことで年度計画を上回って実施している。	32	56	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							
		1-2 【評価委員会等の評価結果の反映】 ○評価委員会の評価結果は、法人にとり最優先の対応を要する事項として学内発表を行い、速やかに大学運営に係る諸施策への反映を進める。 ・評価結果は受領次第、全学説明会において全教職員にその内容を周知せしめる。 ・改善を求める指摘については、速やかに対応策を講じる。 ・評価結果は公表する。	1	・大学評価委員会の評価結果について、全学説明会を20年9月5日に開催し、その概要と対応を説明した。 ・とくに評価の低い事項については、改善策を検討し直ちに実行した。 ・大学のホームページに評価結果を掲載して情報提供した。	B	年度計画を十分に実施している。	32	57	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							
		1-3 【個人業績評価の給与への反映】 ○昨年度の初実施の経験を踏まえ、本学に合う給与反映法式に改善する。 ・初年度の「三大学共通」を優先させた運用から、優れた評価結果に報いる本学らしい方式の採用を検討する。 ・「全額累積加算」の廃止により、月給制と処遇上大きな差のなくなった任期制への給与反映面でのインセンティブ向上を検討する。	1	・本年度から導入した「同僚による授業評価」を個人業績評価システムに反映させた。 ・本学独自の評価基準を考え、特に業績に改善が見られた教員に対して「特別賞」として上乘せ支給する制度を新たに導入した。 ・「全額累積加算」の廃止に代わる任期制へのインセンティブのある給与反映については、他大学と引き続き協議している。	B	目標の実行性の確保に努め、十分に進捗することができた。		58	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】							
		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】			
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)							

ウェイト総計	3	
--------	---	--

【ウェイト付けの理由】

評価に関する特記事項

	データ 番号	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【意見・コメント等】

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 7. 情報公開	情報公開を積極的に推進する。
-----------------	----------------

中期計画		年度計画	ウェイト	計画の進捗状況	自己評価		データ 番号	通し
項目	実施事項				評価	理由		
1. 情報の公開等の推進	1【情報公開に関するガイドラインの作成および情報公開の積極的な推進】 ①大学情報及び積極的な公開を推進するために、情報公開に関するガイドラインの作成を検討する。また、常に新しい、充実した内容が掲載されるよう、ホームページの充実を図っていく。 ②シラバス、研究結果、入試情報、中期計画、組織・運営情報などの各種情報を広く公表する。	1-1【ガイドラインの検討、実施】 ○広報委員会を中心に、法人・大学情報の積極的な公開を推進する。 ・広報委員会を中心に本学として公開が望ましい情報を整理し、未公開の情報につき順次公開を進める体制を整える。 ・ホームページを通じた情報公開を拡充する。 ・策定されたガイドラインや運用ルールの学内周知に努める。	1	・広報・情報委員会(年2回開催)に改編し、法人情報の公開、ホームページの運用について協議し、決定した。 ・ホームページの古い情報の削除、新着情報の掲示の管理方法について協議した。 ・ネットワーク上の情報セキュリティについて協議した。 ・ホームページによる情報公開やメーリングリスト設置のガイドラインを決定した。 ・ホームページのカテゴリー内の更新は、担当責任部署で行うことを決定した。	A	ホームページの運用について、未整備であった更新・削除の責任分担を明確にし、新しいルールで運用開始したので、年度計画を実施している。	59	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
		1-2【ホームページの充実】 ○常に内容が新しく、見る者をひきつけるホームページ作りを推進する。 ・英文化、保護者欄などの新設を行い、情報提供の主たる手段として内容を充実する。 ・附属病院ページを、地域中核病院にふさわしい内容に拡充する。 ・稼働実態の把握のため運用関連計数の把握・分析を検討する。 ・アクセス件数が前年比増加するような創意工夫する。	1	・広報・情報委員会のもとに「ホームページ専門部会」を設置して運用の適正な管理を行った。 ・一般の方が見やすくわかりやすくする工夫として、各対象者別に保護者欄や一般・企業欄を新設し情報を提供した。 ・附属病院ページについては、H19中に大幅な見直しを行ったが、H20では患者紹介ページについての検討を行った。H21から掲載予定。 ・運用関連計数の把握・分析については、実行に至らなかった。 ・トップページに各ページ内の重要な「お知らせ」が一覧表示されるようにした。(旧来は「在学生」「受験生」「一般」等、各ページごとに「お知らせ」が表示されていた。) ・アクセス件数:4,500件(19年度:4000件)	B	年度計画を十分に実施している。	60	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						
	2【個人情報保護の徹底】 福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に努める。そのために、教職員に対し、個人情報保護に関する意識を徹底させる。また、コンピューターからの情報漏洩を防ぐため、インターネット等のセキュリティの強化を図る。	2-1【職員に対する啓発活動】 ○福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に継続して努める。 ・職員に対し、個人情報保護に関する研修を実施する。	1	・大学内全職員に対して、個人情報保護及び情報公開の主旨を徹底するために、福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎えて研修会を開催した。(21年3月実施) ・附属病院のカルテなど、個人情報に関する文書を選別した上で、病院職員に対し適正な取扱を個別に指導した。	A	個人情報保護の研修に加えて、情報公開の研修も実施したので、年度計画を上回っている。	61	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】		【自己評価・ウェイトの修正の有無】 自己評価: 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】		
		ウェイト : 無・有(2→1・1→2)						

項目別の状況(年度計画項目)

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		費用の部	3,332	3,318	△ 14	—
		経常費用	3,332	3,315	△ 16	
		業務費	3,085	3,093	7	
		教育研究経費	386	393	7	
		診療経費	595	666	71	
		人件費	2,104	2,033	△ 70	
		一般管理費	245	219	△ 25	
		(減価償却費 再掲)	(164)	(172)	(7)	
		財務費用	2	2	0	
		臨時損失	—	2	2	
		収益の部	3,332	3,447	114	
		経常収益	3,332	3,439	107	
		運営費交付金収益	1,689	1,658	△ 30	
		授業料収益	324	332	8	
		入学金収益	53	53	0	
		検定料収益	10	6	△ 3	
		診療収益	1,000	1,111	111	
		受託研究等収益	6	18	12	
		受託事業収益	—	—	—	
		寄付金収益	16	13	△ 2	
		補助金収益	73	68	△ 5	
		資産見返物品受贈額戻入	19	18	0	
		資産見返運営費交付金等戻	4	4	0	
		資産見返寄付金戻入	5	4	0	
		資産見返補助金戻入	97	97	0	
		財務収益	1	1	0	
		雑益	35	49	14	
		臨時利益	—	7	7	
		純利益	0	129	129	

2. 資金計画予算		(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		資金支出	3,328	3,413	84
		業務活動による支出	3,167	3,126	△ 40
		投資活動による支出	42	75	32
		財務活動による支出	55	61	6
		翌年度への繰越金	63	150	86
		資金収入	3,328	3,568	240
		業務活動による収入	3,228	3,431	202
		運営費交付金による収入	1,685	1,737	51
		授業料等による収入	414	405	△ 8
		附属病院収入	999	1,111	111
		受託研究等による収入	20	53	33
		補助金による収入	73	74	1
		その他収入	35	49	14
		投資活動による収入	1	1	0
		財務活動による収入	—	—	—
		前年度からの繰越金	98	135	37
II 短期借入金の限度額	1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等によ		該当なし		—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし		該当なし		—
IV 剰余金の使途	教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		平成19年度剰余金103,762,044円を目的積立金とした。 目的積立金42,712,950円を取り崩し、以下のとおり教育及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 活用内容 ・附属病院における新医療システムの導入 ・附属病院における診療機器の更新 ・歯科医師国家試験対策システムの導入		—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし		該当なし		—

中期目標項目	評価
1. 教育	<p>(1)高度な専門性をもった歯科医師の養成については、素養教育の充実させるとともに、歯科基礎教育全科目を統合などを行い、臨床基礎実習教育を開始などの新しい教育手法を導入させ、国家試験の合格率向上を目指したが、十分な結果を残すことができなかった。</p> <p>(2)適正ある優秀な人材確保・育成については、今年度からAO入試を開始して優秀な学生の獲得をめざすとともに、オープンキャンパス、出前講座、高校訪問など広報活動に力を注いだ。</p> <p>(3)教育の質の改善については、FD活動の充実と「同僚による授業評価」を本格導入し、併せて個人業績評価に反映することで、レベルアップさせた。</p> <p>(4)学生への修学支援については、学内ネットを充実され学生の意見や悩みに対応すると共に、学生の要望に即応して自習室の拡大と図書館開館時間の延長を行い、学習環境の改善に努めた。また今年度の成績表から全学年の父兄に送付する制度を整え、父兄と共に学生を見守る体制を強化した。</p> <p>ほぼ計画どおり実施している。</p>
2. 研究	<p>研究水準並びに研究成果の向上については、学長競争枠研究費で若手教員の育成のために資金を提供するとともに、研究の奨励によって実績が増加して、外部研究資金の獲得で非常に成果があった。産学官連携も目標に従い推進することができた。</p> <p>計画どおり実施し、目標を達成することができた。</p>
3. 社会貢献	<p>地域社会への貢献については、今年度は「地域における基幹的病院」として附属病院の機能広報を第一に取り組み、パンフレット配布とホームページ掲載により、紹介件数が増加する成果を得た。Q-shidaiゼミも、デモ版を通して実用に耐えるシステムへのレベルアップを実現し、来期以降の本格稼働に繋げた。また国際貢献については、今年度もネパール及びチュニジアへの歯科医療技術援助を支援し、ネパールは事業20周年、チュニジアは10周年を祝賀した。</p> <p>計画どおり実施し、目標を達成することができた。</p>
4. 業務運営	<p>理事長を中心に人員配置及び予算配分を慎重に検討する体制の下で、要員については教員及び職員共に常勤者総員数は維持しながら優先度に基づく配置運営を行い、緊急度の高い領域については非常勤の採用をもって対応した。また予算については、「教育研究費は下げない」という理事長方針の下で、必要に応じ目的積立金を活用しつつ年度を通じて円滑な運営を行った。</p> <p>(1)事務局機能の強化については、三大学共通の課題として情報交換に努め、引き続き今年度も事務の外部委託や囑託化をもって、効率化の実現に取り組んだ。</p> <p>(2)人事の適正化については、同僚評価の導入により教員個人業績評価の客観性を高めることにより、評価結果を活用した業務改善指導の体制を整備すると共に、評価結果がより適切に反映される給与方式に改訂した。</p> <p>計画どおり実施している。</p>
5. 財務	<p>今年度の財務運営は、診療報酬改定(0.42%アップ)と高度先進医療の拡大による前年比10%増収の病院収入、及び科研費間接経費の増加交付により収入面で恵まれた運営となり、一方経費についてはその3分2を占める人件費(退職金除く)が、理事長を中心とした厳しい要員管理の結果当初予算を下回る実績に抑制することが出来、これに目的積立金を案件に応じて活用することが加わり、総じて順調な推移を示した。期を通じた資金繰りも問題なく運営できた。</p> <p>附属病院経営の改善については、収入面の好調さの裏にある診療経費とりわけ診療材料費の抑制に今期最大の課題として取り組み、材料費の前年比増加率を増収率以下に留める実績となった。この取り組みは次年度以降にも引き継がれることになる。</p> <p>計画どおり実施している。</p>

中期目標項目	評価
6. 評価	<p>評価の充実については、外部による大学認証評価を平成22年度に予定していることから、学長を委員長とする「認証評価委員会」を設置して学内対応体制を固め、準備作業を開始した。福岡県大学評価委員会の評価結果は、通知受領後直ちに改善策を検討し、全学説明会において教職員全員に概要を説明のうえ実行した。また個人業績評価についても、導入後2年間に生じた問題箇所を修正し、より客観性の高い制度へレベルアップすると共に、その結果の活用を拡大した。</p> <p>計画どおり実施している。</p>
7. 情報公開	<p>情報公開等の推進については、広報・情報委員会を中心にホームページの充実(改善)等の運用や情報セキュリティの向上に取り組んだ。大学内全職員に対して、個人情報保護や情報公開の研修を行い啓発に努めた。</p> <p>計画どおり実施している。</p>

区分	評価
業務の実施状況について	<p>前年度の評価委員会評価において教育及び財務項目が3の評価を受けたことを踏まえ、今年度は歯科医療を取巻く新たな環境に適合する教育面の充実を第1に取り組み、中期計画目標7項目がバランスよく推進されるよう努めた。本学の使命は「優秀で人間性豊かな歯科医師の育成」であるが、今年度は特に社会からの要請に応じ「確かな臨床力を備えた歯科医師の育成」に重点を置き、基礎実習及び登院実習の内容を充実させた。また歯科医師国家試験合格基準の引上げに対応し、学習環境の改善を進めた。これ等変革の鍵は教員の意識改革と優秀な学生確保にあると考え、FDの毎月開催、同僚による授業評価、AO入試を実施した。</p> <p>又研究面においては、個人業績における研究実績評価により実績重視の姿勢を明確にし、研究費の若手教員枠の設定により裾野の拡大に努め、積極的な外部申請と論文発表の推奨は、学会表彰及び外部資金獲得増加の成果に結びついた。</p> <p>内外に対する社会貢献活動については前年同様の組織的取り組みを通じて計画通りの実績を収めることができた</p>
財務状況について	<p>今年度の財務は、法人化2年間の経験と知識を生かして引続き慎重な予算運営と厳しい経費抑制を徹底し、期を通じて概ね安定した運営を行うことが出来た。</p> <p>収入面では、11億円を当面の年間収入目標としていた病院収入がこれを上回り、科研費間接経費の交付範囲拡大という恩恵も受けて、当初予算を約9千万円上回る実績となった。</p> <p>一方支出面では、経費の3分の2を占める人件費(退職金を除く)が、教職員の厳しい要員管理により当初予算内に収めることが出来た結果、最終的には129百万円の純利益を計上することが出来た。又年度の途中に発生した教育及び診療の質向上に資する大口投資案件3件42百万円については、法人として初めて目的積立金から充当し当初予算に影響を及ぼさずに実行した。</p> <p>前年度にやや遅れが見られた附属病院の経営改善については、念願の先進医療資格の取得も実現し、地域の中核病院としての広報活動の展開或いは診療材料費の管理などを通して、今年度は一定の成果を上げることが出来た。</p>
法人のマネジメントについて	<p>年度当初に学内理事5名中2名の交代があり、新任者への微調整を加えつつ理事長を中心に法人年度計画の基本方針を確認しながら、チームとして法人・大学運営に当たる体制を維持した。又学内説明会及び教職員各層との意見交換会の頻繁な開催を通して、法人の運営に関する法人構成員の理解向上に努めた。</p> <p>今年度は、歯科医師過剰問題に端を発した歯学志望学生の急減や国家試験合格基準の引き上げ等本学を取巻く環境の急速な変化があり、今の社会的な要請に的確に応える歯科単科大学として発展し続けることを本学の最優先課題として掲げ、特に教育の質向上に重点を置きつつ年度計画全体の達成に取り組んだ。</p> <p>前年度の評価委員会評価において指摘を受けた「法人全体の運営戦略を担う法人の中核としての事務局の役割の重要性と体制整備への一層の取り組み」については、法人として今年度重点課題の一つとして取り組んだが、本学勤務中に集積された事務局担当者の知識経験の継承の困難性など法人化3年を経て新たな課題も現れ、期待される体制は未だ整備されない結果に終わった。今後は県立三大学共通の問題として、改善に向けた取り組みをさらに協議・検討することとする。</p>

組織、業務運営等に係る改善事項について

組織等の改善については、

- ・大学認証評価、大学院手当、学内危機管理、大学連携或いは敷地内禁煙等の全学案件が生じる都度、プロジェクトチームもしくは部会・諮問委員会を随時設置して対応した。
- ・九州工大との連携を円滑に進めるために、学内に「オーラルバイオ研究センター」を設置した。
- ・附属病院事務体制整備のため「病院事務部」を新設、事務長に福岡県派遣職員を充てた。

業務運営については、

- ・法人運営構成員の意識改革のため、各層との意見交換機会の拡大に加え、新任教員・職員への理事長オリエンテーション、FDの毎月開催及び優れた業績の教員がより報われる給与制度への移行を試みた。
- ・システムの老朽化とレセプトオンラインへの環境整備のため、附属病院新維持システムを10月に稼働させた。
- ・今年度の事務効率化は外部委託化・嘱託化に焦点を当てて取り組み、派遣職員の減員を見合いに病院事務の外部委託及び手薄な病院未収金管理への専任嘱託採用等を実現した